

# 日米同盟の 過去・現在・未来を 理解するための決定版

書店・インターネットにて **好評発売中!**



- ◇ 旧安保条約締結から普天間基地移設問題、22防衛大綱まで日米同盟の歴史・現状・展望を詳説
- ◇ 日米同盟における各分野を代表する執筆陣
- ◇ 実務家向けの専門的内容を初学者にも理解できるよう分かりやすく表記

2011年4月25日 発売



単行本四六判 304ページ  
定価 2520円(本体2400円)  
ISBNコード ISBN978-4-12-004224  
中央公論新社 TEL 03-3563-1431(販売部)

**【巻頭言】 元内閣総理大臣 中曾根 康弘**



「日米同盟は、これまで幾多の困難を乗り越えてきた。しかし、いかなる緊密な同盟関係も、当事国の努力がなければ維持できない。日米同盟も、両国の国情や国際環境によって、今後どのように変化していくかわからない。我々日本人一人一人が、これからの時代において、とくに世界やアジア情勢を見据え、客観情勢の変化に応じた主体性、自主性をもった同盟のあり方、方向性を考えていかねばならない。同盟の深化とはそのことである。」

(本文より抜粋)

**【監修】 東京大学名誉教授 渡邊 昭夫**



「今われわれがなす選択が将来の世代の生き方を制約するのだという自覚を鋭く持って現実に対処しなくてはならない。必要な装備の整備は無論、法制上の改善、自衛隊や米軍に対する世論の支持、防衛関係情報の厳格な管理システム、防衛技術の向上など、ソフト面を含むトータルな『安保体制』が抑止力なのである。その意味で、安全保障問題や日米安保体制に関する幅広いコンセンサスは、最も基礎的な要件である」

(本文より抜粋)

**【監修】 東京大学教授 北岡 伸一**



「日米安全保障条約の第二条には、自由な政治的経済的制度を強化するという文言がある。つまり自由主義へのコミットメントが、日米同盟の精神的基礎である。日本もアメリカもこの精神に沿って、自らのありかたを振り返っていかなくてはならない。現在のアジアで問われているのも、こうした価値を体現した制度が維持できるかどうかである」

(本文より抜粋)

**『日米同盟とは何か』 目次**

	巻頭言	元内閣総理大臣	中曾根康弘
	はしがき		
第1章	日米同盟の史的概観	東京大学名誉教授	渡邊昭夫
第2章	わが国の防衛力の役割と日米同盟	防衛大学校教授、元研究本部長	山口 昇
第3章	米国による拡大抑止の実体	防衛省防衛研究所主任研究官	高橋杉雄
第4章	米国から見た日米同盟の重要性	アメリカン・エンタープライズ公共政策研究所 日本研究部長	マイケル・ オースリン
補	日米技術協力と日米同盟	拓殖大学海外事情研究所教授	佐藤丙午
第5章	オバマ政権のアジア戦略 米軍の対中政策と日米同盟	拓殖大学教授	川上高司
第6章	中国の軍事的拡大と日本の対応	防衛大学校教授	村井友秀
補	中国から見た日米同盟の評価の変遷	東京大学大学院准教授	川島 真
第7章	脱冷戦期日米同盟の変遷と 韓日の同盟外交	ソウル大学国際大学院副教授	朴喆熙
補	北朝鮮の核・ミサイル開発と日米同盟	防衛大学校教授	倉田秀也
第8章	東アジアにおける戦略環境の推移	静岡県立大学教授	梅本哲也
補	日米同盟 東アジア等“Sub-region”への コミットメント ～東南アジアを中心に～	桜美林大学教授	佐藤考一
第9章	米軍の前方展開の歴史と再編の行方	拓殖大学教授	川上高司
補	日米同盟と集団的自衛権	世界平和研究所主任研究員	御籠納直樹
第10章	日米同盟と米国同盟システムの再編	政策研究大学院大学教授	岩間陽子
第11章	日米同盟における「密約」問題 おわりに ～日英同盟と日米同盟～	東京大学教授	北岡伸一